

第26回長岡しんきん 業種別景気動向調査レポート

平成20年10月～平成21年03月：実績
平成21年04月～平成21年09月：見通し

平成21年4月発行
 <編集> 長岡信用金庫 総合企画部
 電話 0258 - 36 - 4344
 <HP> <http://www.nagaoka-shinkin.com/>
 <メール> shinkin@nagaoka-shinkin.com

本レポートは、当金庫お取引先のご協力を得て調査したものです。(有効回答数 221 先、回収率 100%)
 各設問事項で「増加(上昇)」したとする事業所が全体に占める構成比と、「減少(下降)」したとする
 事業所の構成比との差(判断DI)を中心にまとめております。

概況 業況判断DIは36.4ポイントの悪化、来期も一層の悪化を予想

平成20年10月～平成21年03月期における全業種の業況判断DIは、前回調査より36.4ポイント悪化して79.1となった。今回調査では、その他の業種(サービス業、飲食業、不動産業)の62.9以外は70.0超となり、平成8年9月期の調査開始以来最悪の値を示した。

前回調査と比べると、製造業で59.7ポイント、建設業で27.0ポイント、卸売業で17.9ポイント、小売業で3.3ポイント、その他の業種で18.5ポイントといずれも悪化しており、地元中小企業の景況マインドは急激に冷え込んでいることがうかがわれる。

来期(平成21年04月～平成21年09月期)は、「悪化、やや悪化」と回答した企業が85%を超え、業況判断DIは83.1とさらに4.0ポイントの悪化を見込んでいる。

業種別では、90.5まで悪化した製造業は、売上高がピーク時の2～4割にまで落ち込んでいる企業もあり、一時帰休等で対応中とのこと。今後は、横這いまたは在庫調整終了により若干の好転が見込まれる等から、4.1ポイントの改善を見込んでいる。

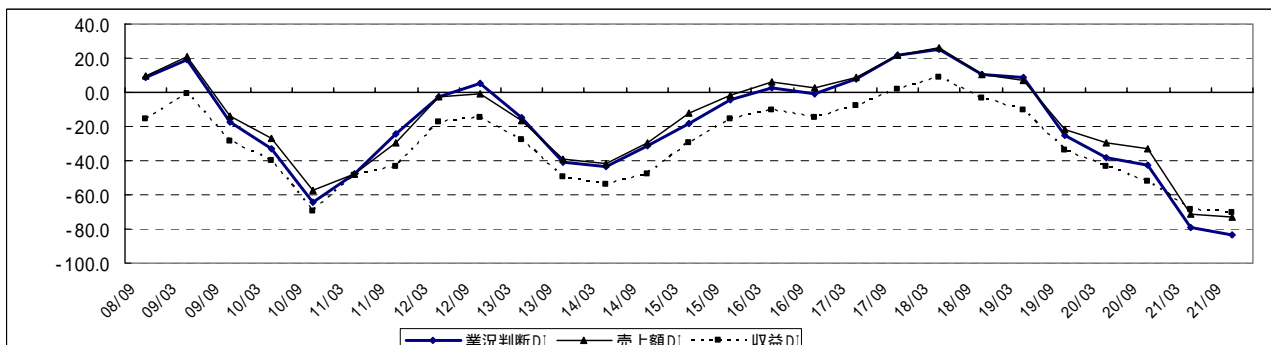
建設業は、公共事業の減少、競争激化、落札額の低下等により環境は厳しく70.8と前回調査に比べると27.0ポイント悪化した。今後の見通しでは、新年度公共事業の発注に期待しているものの受注環境は改善せず、民間工事は減少見込みから81.3と一層の悪化を見込んでいる。

卸売業、小売業については、景気の先行き後退を反映した消費の低迷や同業者間の競争激化からそれぞれ75.0、78.2とマイナス幅が拡大している。今後の見通しでは、卸売業が75.0と横這いを見込むものの、小売業は景況マインドの急激な冷え込みにより95.7と一段の悪化を見込んでいる。

前回から集計を開始した上記以外のその他の業種においては、62.9と18.5ポイント悪化した。今後の見通しでも74.2と一層の悪化を見込んでいる。

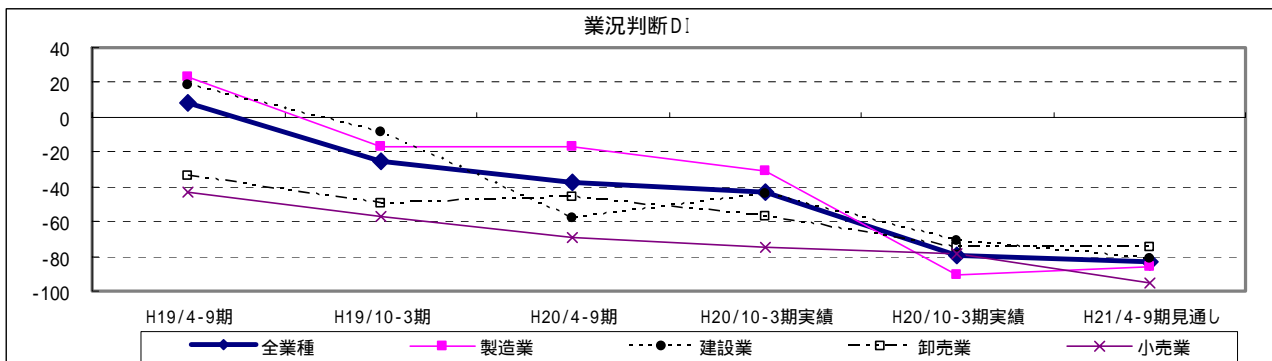
特別調査「平成20年度の決算状況等について」では、68.8%の企業が「売上減少」(19年度比)と回答している、売上総利益では「黒字減少」46.2%、「赤字転換・赤字継続」20.4%、当期利益では「黒字減少」38.5%、「赤字転換・赤字継続」21.7%と約4割の企業が減収、約2割の企業が赤字となっている。売上減少は「販売数量の減少」(68.8%)が影響しており、円高が決算に悪影響していると回答した先は39.8%、今後の人員計画では「現状の人員は維持する」67.4%、「正社員を減らす」9.0%、「パート・アルバイト・派遣社員を減らす」3.2%であった。

過去の業況判断DI、売上額DI、収益DIの推移(全業種計)(21年9月期は見込み)



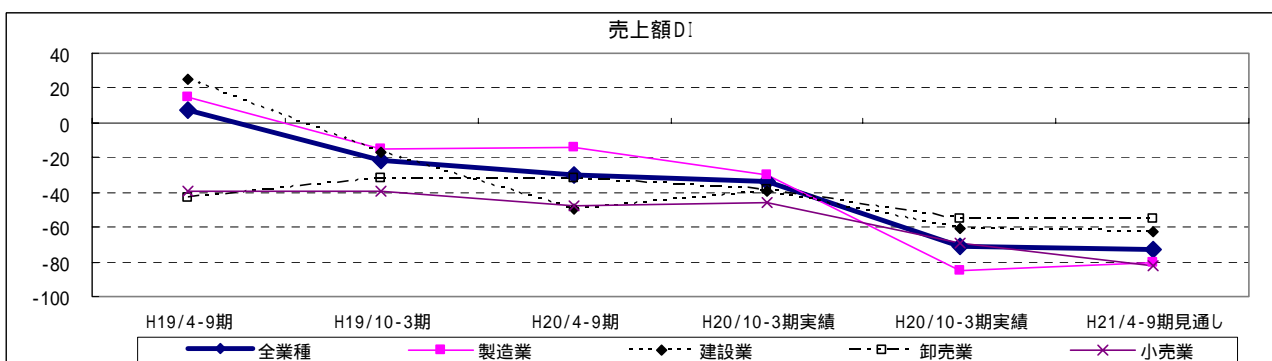
業況判断 D I

製造業が大幅に悪化し全業種で悪化幅が拡大した。4期連続で全業種マイナス推移となった。



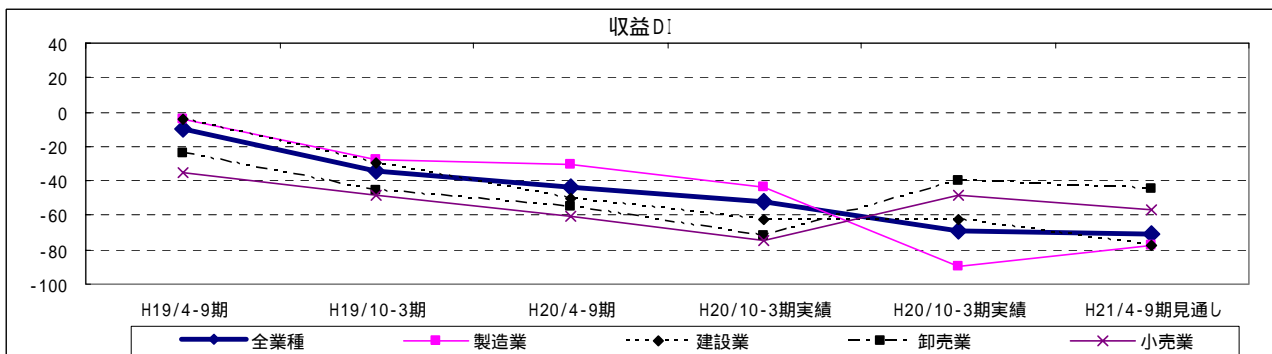
売上額 D I

全業種で悪化幅が拡大した。製造業は若干の改善見込み、卸売業は横這い、他は更に悪化へ。



収益 D I

卸売業、小売業は改善し、建設業は横這い、他は悪化した。製造業は改善見込み、他は更に悪化。



その他の調査項目の特徴点

仕入価格は、今回調査では全体で横這い。見通しでは全業種で仕入れ価格の低下を見込む。

販売価格は、全業種で悪化となっている。見通しでは小売業を除き更に悪化を見込む。

商品在庫は、卸売業で「過剰」となっている。見通しでは小売業が増加を見込む。

受注残高は、製造業で43.7ポイント以上の落ち込み、その後は8.9ポイントの改善を見込む、建設業は23.1ポイントの落ち込み、見通しも6.1ポイントの悪化を見込む。

資金繰りは、製造業と建設業で悪化、見通しでは全業種で悪化を見込む。

人手は、製造業が38.9ポイント過剰となり、全業種で過剰となった。見通しでは全業種で更なる悪化を見込む。

借入金の動向

(借入金の実施：平成20年10月～平成21年3月)

借入の実施	構成比	資金使途(「借入した」と回答した事業所のうち)					
借入した	75.6%	運転資金	90.5%	設備資金	5.3%	その他	4.1%
借入しない	24.4%						

(借入金の予定：平成21年4月～平成21年9月)

借入の予定	構成比	資金使途(「借入の予定あり」と回答した事業所のうち)					
借入の予定あり	35.3%	運転資金	85.9%	設備資金	9.0%	その他	5.1%
借入の予定なし	64.7%						

設備投資状況

(単位：%)

区分	前回調査 (実績)	20/10～21/3期 設備投資(実績)					21/4～21/9期 設備投資(予定)				
		全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業
合計	29.0	23.5	18.1	33.4	10.0	17.3	19.5	16.0	25.1	15.0	13.0
土地建物	6.3	2.3	1.1	2.1	0.0	8.7	2.3	1.1	2.1	0.0	8.7
機械新增設	7.2	5.4	5.3	6.3	0.0	0.0	4.5	5.3	4.2	10.0	0.0
機械更新	5.0	9.0	8.4	16.7	0.0	4.3	4.5	5.3	2.1	0.0	0.0
事務機器	2.3	0.9	1.1	0.0	0.0	4.3	1.4	0.0	4.2	0.0	4.3
車輛その他	8.2	5.9	2.2	8.3	10.0	0.0	6.8	4.3	12.5	5.0	0.0

経営上の問題点(深刻度の高い順に3つ)

(単位：%)

項目	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業
売上の停滞減少	71.5	78.9	70.8	65.0	56.5
同業者間の競争激化	24.5		37.0		
利幅の縮小	17.9	24.7	23.1	21.1	19.0
販売先からの値下げ要請		23.0		21.1	
仕入先からの値上要請				23.5	
取引先の減少					20.0

当面の重点経営施策(重要度の高い順に3つ)

(単位：%)

項目	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業
販路を広げる	57.0	58.9	47.9	80.0	52.2
経費を削減する	39.8	42.0	39.5	55.6	30.4
提携先を見つける				14.3	
仕入先を開拓選別する				14.3	
店舗設備を改装する					16.7
技術力を強化する	23.3	33.9	21.1		16.7

調査員のコメントから

工場移転により、大型対応可能。同業他社に比べ受注を維持している。(製造業)
 景気低迷の影響は受けているものの、営業力に強みを持ち、一時帰休は未実施。(製造業)
 経営改善中。昨年よりの人件費削減により、収益状況は今後の受注により好転可能。(製造業)
 早めの受注確保により、量的には比較的安定推移。年度末に向けての受注残もあり、半年程度は現行同様と思われる。(製造業)
 産業機械・工作機械とも急激な落込みであったが、各メーカーの在庫調整終了及び新年度生産計画の発注分もあり、若干ではあるが持ち直し状況。(製造業)
 県外企業への営業活動に力を注いでいる。(製造業)

来期に向けては大口受注も入り、増収・増益見通しで明るい状況。現状人手不足であるが、今後の見通し不透明のため、現状の人員で対応。一部外注を利用し乗り切る。(建設業)
 前期は新築工事を無理に受注せず、リフォーム中心に営業。売上は大幅に減少したものの、収益改善は図られた。今期はすでに新築1件、リフォーム数件あり。収益確保が課題(建設業)
 暖冬の影響により売上減少。また、不景気により客単価も低下。今後は店内改装、ネット販売の開始により、売上増加を図る。(小売業)
 設備投資効果もあり、順調に売上計上。借入負担が大きく、売上高確保・維持が課題。(旅館業)

特別調査「平成20年度の決算状況等について」

